

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

NPO法人むすめかぶき

所在地	愛知県名古屋市	設立年	2005年
運営主体	NPO法人むすめかぶき		
事業目標	<p>質の高い文化伝統芸術を学び、仲間と共に「心」を創る場を提供。 西洋化の中、さらなるコロナ渦でごく少数となった今、日本の伝統文化芸術を師を持ち子供たちが学ぶことは人格形成に重要な役割を果たす。</p> <p><得れるもの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の日本人としてのアイデンティと精神安定 ・学校外のコミュニティの確保による自己存在意義と自己肯定感 ・発表会による地域の学校と地域住民との繋がり強化と伝統文化の認知。 		
きっかけ	<p>西洋化が進む中、このコロナ渦において更に希薄となった日本文化への関心。私たちはこの活動を通して、子供たちや地域社会に貢献できるよう日本文化を身近な物として触れる機会を提供したいと創設する決心をしました。子供たちが日本の伝統文化芸術の師を持ち、学ぶことは人格形成に重要な役割を果たすと考え、質の高い文化伝統芸術を学び、仲間と共に「心」を創る場の提供を目指します。</p>		
団体・組織等の連携			
活動場所	<p>①日本画 :株式会社 本草閣薬局 店内 (レッスン・発表会) ②日本舞踊:中部邦楽教室(お稽古) 東山荘(発表会) 名古屋能楽堂(公演)</p>		
活動概要	<p>①日本画を描く 計5回 日本画の描き方やその方法、国宝や重要文化絵画に描かれている日本人の想いを学びながら実際に描き、その心と表現方法を学ぶ</p> <p>②こどもかぶきを踊る 計11回 挨拶など作法ふくめた「こどもかぶき」の身体表現を学ぶ</p>		

○本事業による成果

- ・一か月間の応募にて直ぐに定員10名の応募あり。
 - ・活動回数 17回のうち、参加率90%(約1回/人の欠席に留まる)
 - ・離脱率10%・男児一名:参加者が女児が多かったことによる
 - ・発表会計2回(日本舞踊1回・日本画プロジェクションマッピング1回)
一回目:日本舞踊 参加率100%(コロナ渦による懸念で1名当日不参加を除く)
二回目:日本画 参加率100%(不参加無)
- ともにご友人、ご家族の参加含めて400%の参加率
- ・アンケート結果
満足度:80%
課題 : 伝統文化といった特殊な世界のしきたりを親御さんに事前にわかりやすくお伝えする。

<日本舞踊>

着付けはもちろんのこと、お作法の襖の開け方、お辞儀の仕方など基本から始まり、古典の1つである「菊づくし」を覚え発表。日本古典での所作、動きなどの基本を体感することが出来た。

西洋文化と違い楽譜やマニュアルが無い中でのお稽古に対しはじめは戸惑いもあったが徐々にコツを掴んだ。

発表会では、その自信から祖父母を含めたご家族をさそい、参加者の4倍を越える観客の中立派に舞う事が出来た。(コロナ渦の為、ご友人などそれ以上の観客に対し遠慮いただきました)

10回のお稽古という短い中ではあったが、かなりの集中力を持って取得出来たことに自信を持つ事が出来た。彼女たちの人生で大きな財産になった事は言うまでも無い。

<日本画>

クレヨンや絵具になれた子供たちは和紙や顔彩も初めて。日本画屋さんに行き道具一式を購入することから始まり、未知な世界を知る事を楽しむ。

レッスンでは、和紙と顔彩の取り扱いと特徴と使用に慣れた後は、発表会に向けて国宝の

風神雷神図を一心に高い集中力を持って取り組む。集中しすぎて時間を忘れる子も多かった。

また納得のいかない絵と感じた一部の子は、自ら家で書き直し持参するといった前向きさを見せ、講師をやる気にさせた。

発表会では、最先端のプロジェクションマッピングとの融合で古今を体感。

自分の風神雷神の絵画が壁に映し出されそれが動き、触ることで変化すると言った現代の技術にも感動。

本格的にプログラミングに興味を持った子も多かった事が印象的。

・教員の負担感軽減に寄与できているか。(従来の学校部活動と比較して従事時間がどう変化したか)
特殊な分野であるため比較は難しいが間違いなく学校では教えることが難しい分野の提供になった。

・学校の部活動との関係性について。(将来、部活動に代わり得る活動として実施していけるか)
学校との連携は今後の課題。

○児童・生徒への指導に関する工夫

<生徒へ>

西洋化された現代生活の中、日本の伝統文化を垣根無く伝えるために下記を導入

毎回

- 1)メールにて事前に説明(内容、時間、場所、持ち物など)
- 2)毎回お稽古後の親御様への活動報告
- 3)各親御さんからの問い合わせや相談、ご要望などの受け入れ

●日本舞踊

お稽古前

- 2)着物の着方、浴衣でのお稽古で揃えるべき一式のご案内、扇子の選び方などのご案内
- 3)各御礼、お辞儀、正座、作法の方法
- 4)浴衣の着方のユーチューブ配信

お稽古後

- 5)お稽古での振付動画配信にて復習

発表会前

- 6)正式な場での着物と帯の選び方
- 7)正式な場でのお作法一式

●日本画

- 8)慣れ親しんだ絵具やクレヨンでなく顔彩の特徴や使用方法
- 9)和紙への取り扱い
- 10)国宝の日本画におけるその時代の画法、歴史背景を伝える

発表会

- 11)自身の描いた絵が現代最先端技術と融合する様を体感し、昔と今の融合を体で取得する。

<指導者>

各専門家を呼び専門分野をわかりやすくレクチャー。

日本舞踊家・日本画家・本草家がそれぞれの分野での考え等を共有することで

(毎回各分野講師が他講師の会に参加し、情報や想いや考え方を得た)

各回で違った立場から他分野を生徒に説明。1分野だけの視点でなく広い考えを持って生徒に伝える様にした。

○運営上の工夫

・コロナ対策として2部制導入

・指導者の養成・質・量の確保について(どのように、誰が、いつ)

伝統文化をよく知っておられる先生を選定(日本舞踊家・日本画・本草家)し、三者の交流を更に図り、子供に対する接し方や教育方針を一致させた。

・活動時間等の在り方等について(ガイドラインの活用等)

塾や学校の時間に極力配慮し、日曜日の開催とした。午前午後を選べるようにし更に個々に配慮。

・生徒たちの募集について(どのように、誰が、いつ)

生徒:やる気のある生徒募集するために、学校を選定。

各学校に予め趣旨等を説明し同意を得た後、チラシを全生徒への配布許可。

チラシ配布後すぐに定員に達し、締め切る。

親御:参加希望の方に対して、事前に説明会を開催。各先生に来ていただき趣旨を説明。

共感していただいた方に本参加申込をしていただいた。(100%参加)

・地域、保護者、教育機関等との連絡調整について

親御さん:毎回メールにて事前のご案内と事後の報告を行う。

問い合わせはすぐに出来るように、専用メールにてすぐに対応出来る様配慮。

・コーディネーター・ファシリテーター等の役割を担う人材育成は図れているか。

ファシリテーター:毎回出席してもらい、OJTの形で育成。計17回で徐々にコーディネート出来るように。

・民間企業とのタイアップ等について

今後の課題

・用具(楽器等)調達、運搬、保管について

日本舞踊:お稽古着は自前の浴衣とし、ない方に対しては必要一式をご紹介しご購入いただく。

日本画:日本画専門店と交渉し、日本画道具一式を10%OFFにさせていただくなどし、

極力の自費負担を避けた。

・活動支援・事業運営のためにICTを活用しているか。

使用媒体: line、メール

※SNSは個人情報(顔など)流出の為不採用。

・関係者全員にとって無理のない仕組みを構築しているか。

課題:日本伝統文化、という特殊な分野の為講師絶対数が少なく、講師が都合悪くなった場合が懸念事項。

○継続的な運営に関する課題・展望

・自治体、地域民間企業等との連携協力体制の構築ができているか。(今後、構築可能になるか)
今後の課題

・人材確保のために教育委員会、地域、団体等の連携が図れているか。
課題: 日本伝統文化という特殊な分野の為講師絶対数が少なく講師が都合悪くなった場合などが懸念事項。

・自治体、地域民間企業等との連携協力体制の構築ができているか。
課題: 初回であったが発表会を通し地域の方々に周知出来たため大きく今後に期待出来る。

・会費徴収に関して保護者・学校等の理解が得られているか。(今後、どのように理解を得ていくか)
会費に関してはクレーム質問等なし。同意を得られた。

・民間の文化芸術団体等との連携は図れているか。
課題。

・人材バンク等の活用は図れているか。
無

・自治体等の補助金制度、民間の基金等の活用。(単年度ではなく、継続的・定期的な)
無

・会費の徴収について。(金額は妥当か)
金額: 10,000円/全17回(発表会含む)でかなり格安。

・保険(公益財団法人スポーツ安全協会等)への加入を必須としているか。
今回は危険な行動をしないと考えられたため未加入。

・減免措置のあるホール等(場所)を利用している等。
無

・クラウドファンディング活用による資金調達等。
無

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

学校教師が部活動指導に当たる際、専門的な知識や経験に偏りが生じることが課題である。子どもたちのために教師が部活動に力を入れることは、子どもにとって財産とはなるが、教師の労働時間に問題が生じてしまう。実際に指導を行うのは、専門の人材が行った方が子どもたちは平等に活動することが出来る。前もって実演家と教師が計画会議を綿密に行い、教師はその分野独自の背景・歴史・技能を知り、子どもと実演家の橋渡し役となることが理想である。また実演家も教師より教育のノウハウを学ぶ必要がある。幅広い地域の行事に参加してゆくことが、開かれた部活動を形成するのではないか。

参加者 (予定人数)	小学校1年生～6年生(10名)
募集方法	チラシ・インターネット
指導者	実演家5名程度 (舞踊・邦楽・茶道・能楽など)
移動手段	保護者による送迎
活動費用	5000円/10回～20回の稽古 5000円/発表会

<p>スケジュール</p>	<p>年間スケジュール等を記載する。 講座入会説明会 年度はじめに実施する 稽古 月に1回～2回 日曜日に2回に分けて行う 発表会 年度末に実施する</p>
<p>保険加入等</p>	<p>保険種別・対象人数等を記載する。</p>

【日本舞踊】

応募チラシ

①お作法



②お稽古



③発表会(活動写真、発表会案内チラシ)

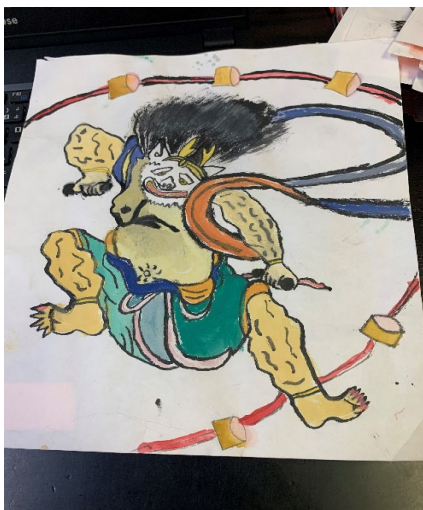


【日本画】

① 絵画(練習)



② 絵画(国宝、依屋宗達 風神雷神図)



③ 発表会((活動写真、発表会案内チラシ)(プロジェクターマッピング×日本画)

